

平成 25 年 3 月 21 日

報道各位

ニューホライズン キャピタル株式会社

NH-2 号ファンド
第三次募集、200 億円規模へ
～金融機関と連携、再生事案の拡大目指す～

投資ファンド運営のニューホライズン キャピタル株式会社（本社 東京都港区西新橋、取締役会長兼社長 安東 泰志、以下「NHC」）は本日、昨年末に発表した弊社にとって 2 本目となる企業再生支援ファンド「ニューホライズン 2 号投資事業有限責任組合（NH-2）」のセカンドクローズで 100 億円超の投資額を固め、新たに 6 月のサードクローズに向けて最大で総額 200 億円規模とするファンドレイズを引き続いて継続すると発表しました。

本ファンドは、昨年 12 月末の一次募集（ファーストクローズ）で 53 億円を達成しており、ことし 1-3 月期をメドに、第二次募集（セカンドクローズ）で 100 億円を見越していましたので、ほぼ予定通りの進捗となっております。

主な投資機関としては、中小企業基盤整備機構はじめ、地方銀行、信用金庫、ノンバンク、事業法人、個人などですが、一般的にはファンドレイズの環境は極めて厳しいといわれる中で、このように順調な成果を上げることができましたのは、金融円滑化法の出口戦略に対する弊社の実力と過去の実績が評価されたものと思われま

す。未曾有の金融緩和の中、債券価格の動向が不透明であること、本業とシナジーがあることなどを背景に、NH-2 に対する金融機関等からの投資希望が旺盛なことから、これから本格化する中小企業の再生・業界再編に向けて再生対象企業を増やしていくために、第三次募集（サードクローズ）を 6 月まで継続、当初の募集見込み額 150 億円を総額 200 億円規模に増額修正致します。

目下、今月末で期限切れを迎える金融円滑化法の出口戦略が官民で模索されていますが、中堅・中小企業の経営環境は、内外の情勢を映して極めて厳しいと言わざるをえません。抜本的な解決策としての中長期的視野に立った産業再編、事業再生を図る改革案を早急に策定するとともに、民間のリスクマネーを活用して推進していくことこそ官民挙げての喫緊の課題です。

弊社は、産業再編、事業再生のプロとして存在する民間独立系の再生・成長支援ファンドの活用を大いに図るべきであると考えています。

NHC は、前身であるフェニックス・キャピタル時代から継続 11 年超の実績（独立系ファンドとしては最大規模の運用資産：総額 2300 億円超）を背景に、NHC として 2 本目、創業から 8 本目のファンドを運営することになります。

弊社チームは、三菱自動車をはじめ、ティアック、東急建設、不動建設、世紀東急工業、市田、ツムラなど、エクイティー投資先だけで 26 社、債権の買取を含めると 70 社以上と、日本随一の企業再生・再編投資実績を有しています。

直近では、日立化成グループで慢性的な赤字経営会社であったハウステックを 08 年に買収、リーマンショックや改正住宅基準法の逆風の中、1 年間で黒字化後、成長企業として蘇らせ、ことし 5 月にヤマダ電機に売却、同社のスマートハウス構想の中で更なる成長路線に乗せることができました。

なお、サードクローズでは、年金基金ほか、メガバンク、地方銀行、生命保険、海外年金、ファンドオブファンズ、事業法人などからの投資を見込んでおります。

NHC の会長兼社長の安東泰志は「弊社のような実績のある独立系ファンドが企業融資に関連する金融機関と協調して企業の再生を行なっていくことこそ、真の再生支援のあり方であり、強い使命感を持って今後も日本経済の再生に寄与していきたい」と抱負を述べています。

この件に関する問い合わせ先：

広報担当（IFC）竹江、連絡先：03-5532-8921